

あいち農産物生産流通レポート

平成20年4月号

情報サロン		
・全国初！ マンガで食育を進めます	-----	1
～田部家の食育ものがたり「LET'S 食育」を作成しました～		
(食育推進課)		
地域トピックス		
・農地・水・環境保全向上に使える！	-----	2
住民参加による水利施設維持管理マニュアルの作成		
(農業総合試験場)		
東日本情報		
・平成19年の東京都中央卸売市場における愛知県産	-----	3
農産物の取扱高は引き続き県別第3位！		
(東京事務所)		
西日本情報		
・三重県における学校給食へ地元農産物の導入促進の	-----	5
取組み事例について	(食育推進課)	
フラワーページ		
・日本産花きの輸出	-----	7
(東京事務所)		
青 果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)		
・名古屋・東京市場における青果物の4月の見通し	-----	8
	-----	9
花 き		
・切花・鉢花の4月の見通し(県内市場)		
	-----	21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2008年1月)		
	-----	25
関連指数		
	-----	26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

全国初！マンガで食育を進めます

- 田部家の食育ものがたり「LET S 食育」(マンガ版)を作成しました -

本県では、朝食の欠食割合が高い20歳代・30歳代をはじめ、その前後の年代を中心に食育を親しみやすく啓発するため、田部家の食育ものがたり「LET S 食育」(マンガ版)を作成しましたので御紹介します。

1 内 容

「あいち食育いきいきプラン」(愛知県食育推進計画)に掲げた3つの方向(健康な体、豊かな心、環境に優しい暮らし)について、家族4人の日常生活を描いた8話とコラム及び参考資料で構成しています。

【健康な体】

- 第1話 早寝 早起き 朝ごはん
- 第2話 メタボリック対策
- 第3話 歯を大切に！

【豊かな心】

- 第4話 おうちでごはん
- 第5話 家族で伝統料理

【環境に優しい暮らし】

- 第6話 地産地消
- 第7話 環境に優しい食生活

【まとめ】

- 第8話 「食」って大切！

【参考資料】

食事バランスガイド、あいち食育いきいきプランの紹介等



2 体裁・作成部数

A 5版、18ページ、カラー刷り・20,000部

3 配布先等

愛知県食育推進会議の構成団体などに配布するほか、愛知県食育推進ボランティアの活動やあいち食育サポート企業団が行うユニー・アピタでの店頭キャンペーンなどで活用します。

なお、本県の食育に関する総合的な情報Webサイト「食育ネットあいち」にも掲載していますので、ぜひご覧ください。

「食育ネットあいち」<http://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/index.html>

農地・水・環境保全向上に使える！
住民参加による水利施設維持管理マニュアルの作成

平成19年度から、農家だけでなく、広く地域住民が参加して、農地や農業用の水路などを維持管理する「農地・水・環境保全向上対策」が始まりました。

農業総合試験場は、農林水産省の委託研究事業*の成果として、この取り組みに活用できるマニュアルを作成しました（図1）。

* 農林水産研究高度化事業「自然再生のための住民参加型生物保全水利施設管理システムの開発」（平成15～19年度）。愛知県、埼玉県、宮城県、石川県、農村工学研究所、東京大学などの共同研究。

マニュアルには、地域ぐるみの活動に向けて、設置・維持管理の負担が少なく、生物保全・再生ができる水路の改修技術 水田周辺に棲む生物の説明と簡単にできる生物調査・観察の方法 農業に接点が少ない住民の関心・理解を高め、地域の合意形成をすすめる手法 など、この研究事業で開発した102の手法・技術（マニュアルでは「ツール」と称している）（図2）や取り組み事例を、1枚のDVDに納めています。なお、マニュアルでは、取り組みの手順を26の場面からなるストーリー仕立てで紹介し、各場面で活用できる「ツール」にリンクさせています。



図1 マニュアル画面



図2 ツールの例：愛知県で開発した生物再生のための改修技術「魚道」と地域の子供たちによる生物調査の様子

マニュアルのタイトルは「担当者の心得2007」です。主に土地改良区や県・市町村の担当者向けですが、どなたにも参考になります。是非、「農地・水・環境保全向上対策」や地域づくりにご利用ください。お問い合わせは、農業総合試験場農業工学グループ、環境安全グループ、経営情報グループ（電話 0561-62-0085）まで御連絡ください。

平成19年の東京都中央卸売市場における

愛知県産農産物の取扱高は引き続き県別第3位！

平成19年(歴年)の東京都中央卸売市場(青果扱い9市場)における野菜・果実・花きの取扱高は野菜・果実部門で約6,030億円と、前年を0.9ポイント(約57億円)下回った。

愛知県産については、花きは前年を若干上回ったものの、野菜・果実で前年を大きく下回り、全体で330億円と前年を3.7ポイント(約13億円)下回った。

なお、都道府県別では18年にトップになった茨城県が2位の千葉県との差を約40億円(H18は4億円)に広げ、愛知県は3位と変わらないが、4位の長野県との差は約30億円に縮まった。5位以下は、青森・北海道や栃木などの関東各県の6道県が第3グループ(290~250億円)を構成している。これら第3グループは、18年は8位だった青森県が5位になるなど、野菜・果実の価格変動により毎年のように順位が入れ替わっている。

平成19年 東京都中央卸売市場 産地別取扱実績(金額)

(単位:億円)

産地	野菜			果実			花き			順位	計		
	金額	前年比	割合	金額	前年比	割合	金額	前年比	割合		金額	前年比	割合
合計	3,343	97.9		1,688	98.7		998	103.6			6,029	99.1	
内輸入	137	88.3	4.1%	128	91.6	7.6%	87	113.6	8.8%		382	100.0	6.3%
茨城	402	103.1	12.0%	99	101.2	5.8%	47	101.5	4.7%	1	548	102.6	9.1%
千葉	373	93.6	11.2%	46	103.2	2.7%	89	102.8	8.9%	2	508	95.9	8.4%
愛知	147	91.8	4.4%	37	94.0	2.2%	146	101.9	14.6%	3	330	96.3	5.5%
長野	177	106.6	5.3%	72	101.0	4.2%	53	100.1	5.3%	4	302	104.1	5.0%
青森	132	102.8	3.9%	151	110.4	8.9%	4	102.6	0.4%	5	287	106.7	4.8%

部類別取扱状況**野菜**

冬野菜の安値の影響が大きく、取扱高全体では約3,343億円と、前年を2.1ポイント(約70億円)下回った。

愛知県産については、トマト・ミニトマト・ブロッコリーは前年を上回ったものの、秋冬キャベツの安値(前年比13億円)が大きく影響し、野菜全体は、前年を8.2ポイント(約13億円)下回り、147億円となった。

野菜品目別取扱額(愛知県分)

単位:千円

順位	品目	平成19年	平成18年	19/18
1	トマト	2,809,524	2,728,729	103.0%
2	キャベツ類	2,551,332	3,863,353	66.0%
3	ミニトマト	1,938,624	1,818,617	106.6%
4	おおば	1,935,886	2,077,152	93.2%
5	ブロッコリー	1,221,314	1,051,594	116.1%

なお、都道府県別では、長年トップの千葉県が、茨城県に約30億円の差を付けられ、2位に後退した。第2グループは北海道・群馬県と続き、愛知県は長野・埼玉・高知県に続く8位(18年は7位)で第3グループを構成している。

果実

取扱高全体では約1,688億円で前年を1.3ポイント(約22億円)下回り、一昨年並みに戻った。

愛知県産については、いちごを始めとする主要品目全てが前年を下回り、果実全体では前年を6ポイント(約237百万円)下回る37億円となった。

なお、都道府県別では、トップが青森県、2位が愛媛県、3位が栃木県と変わらず、静岡県・山梨県の5位までが、100億円を上回っている。愛知県は青森県の4分の1程度で17位と前年と同じ順位であった。

果実品目別取扱額(愛知県分)

単位:千円

順位	品目	平成19年	平成18年	19/18
1	いちご	1,348,616	1,387,507	97.2%
2	いちじく	878,646	915,628	96.0%
3	みかん	865,403	986,515	87.7%
4	柿	417,311	470,336	88.7%
5	メロン	97,933	106,696	91.8%

花き

全体では観葉が前年を2.5ポイント下回ったが、切花が前年を4.5ポイント上回ったため、取扱高では1千億円弱と、前年を3.6ポイント(約35億円)上回った。

愛知県産については、洋らん鉢物が前年を下回ったが、鉢花5ポイント、切花2.5ポイントなど前年を上回り、花き全体では前年を1.9ポイント(約3億円)上回る146億円となった。

なお、都道府県別では愛知県が15%の占有率で2位以下を大きく引き離してトップとなっている。部類別でも、愛知県は切花・観葉植物で1位、鉢花・洋らん鉢物で2位となっており、特に観葉植物では41%の占有率となっている。

花き品目別取扱額(愛知県分)

単位:千円

	品目	平成19年	平成18年	19/18
切	1 輪ぎく	5,263,759	5,302,454	99.3%
	2 スプレー菊	1,374,780	1,250,397	109.9%
	3 ばら	957,575	924,263	103.6%
花	4 カーネーション	490,239	484,800	101.1%
	5 デルフィニウム	457,021	470,282	97.2%
	切花 計	10,027,848	9,780,940	102.5%
鉢	1 観葉植物	1,792,331	1,786,895	100.3%
	2 洋らん鉢物	1,065,894	1,137,098	93.7%
	3 鉢花	1,098,861	1,046,603	105.0%
	鉢物 計	3,957,086	3,970,596	99.7%
	花壇苗	192,370	181,862	105.8%

三重県における学校給食へ地元農産物の 導入促進の取組み事例について

学校給食で多くの地場産物を使用することにより、地元でとれる食材やその生産などについて児童生徒の関心や理解を深めることは、地域の食べ物を大切に作る心を育て、食べようとする意欲につながることから、本県は、食育いきいきプラン（愛知県食育推進計画）のなかで、学校給食における地場産物の使用割合を平成22年度に35%（平成19年度は27.9%）以上にする目標を掲げ、様々な取組みを進めている。

今回、3月18日（火）に三重県農業協同組合中央会主催による地元農産物を学校給食に供給する事例発表会で発表された「JAいがほくぶ」の取組み内容を紹介する。

1 学校給食への食材供給の経緯

市町村合併によってできた伊賀市10中学校へ給食を供給する「いがっこ学校給食センター夢」が、平成19年4月より稼動した。これを機に、JAいがほくぶが学校給食センターに地元農産物の供給を進めた。

2 食材供給までの準備

農協と市教育委員会、市産業振興部農林政策課との打合せ

(1) 1年間に必要な食材の種類と量を予測

教育委員会が月単位で品目使用量を算出

(2) 伊賀産青果物の供給可能時期と量を推計

農協が過去の出荷実績等をもとに青果物約30品目について供給可能量を推計

(3) 野菜を中心とした食材供給対応者の募集

農協が説明会を開催し、参加生産者を募集

3 食材供給開始に伴う取組み

(1) 栽培研修の実施

直売部会員向けに品種説明会や栽培技術説明会、女性組織の野菜栽培グループに野菜研修会の実施

伊賀地域向けの「野菜栽培指針（17品目）」を作成し、直売部会員に配布

(2) 出荷規格説明会の実施

学校給食用の出荷規格表を作成し、説明会で配布するとともに、出荷規格用ものさしも希望者へ配布
出荷希望者へ巡回指導

4 いがっこ学校給食センター夢とJAいがほくぶとの供給に係る取り決め

農協は、地元の農産物の生産情報を把握し、出荷希望を取りまとめ供給する。学校給食向けに出荷可能なものは、市の食材納入の一般入札に先立ち、相対交渉を行う。

具体的には、学校給食1ヶ月の使用量で地元農産物の割合が50%を越えると予測される場合は、農協が給食センターと単価等を交渉し、相対で取引を行う。

5 地元農産物を使用するメリット

(1) 生産者側

専用コンテナで出荷するため、出荷資材が不要など、諸経費が小さくなる。

少量でも品質が良いものであれば販売できる。

(2) 学校給食センター側

学校給食側は、市場で調達するよりも安価で農産物を購入できる場合が多い。

使用する食材の生産者を特定できる。

6 現状の問題点

(1) 生産上の問題

一人当たりの生産量が少ないため、出荷量の予測が難しい。

学校給食への出荷基準が厳しい部分もあり、上物一部しか納品できない。

露地野菜中心で、出荷時期が集中する。

(2) 供給・流通上の問題

1日2回の青果物を搬送することから、コストがかかる。

学校給食向けに規格調整を行うには手間がかかる。

(3) その他

納品規格に合わない野菜類もカット等の加工により、納入可能と考えるが、給食センターは加工野菜を使用しない原則がある。

地元野菜が多い時期にもかかわらず、給食に使用する量が少ないものがある。

いずれにしても、地元農産物が学校給食に積極的に取り入れられることは、将来を担う子どもたちの食や農林水産業に対する理解を深め、地域の農業振興につながることから、本県においても、他県の優良事例等も参考に、関係者と連携し推進していく必要がある。

日本産花きの輸出

政府は平成25年度までに農林水産物・食品の輸出額を1兆円規模にする目標を掲げている。こうしたなか、日本産花き輸出の拡大を目指し、第1回日本産花き輸出促進交流大会が、日本花き輸出協議会と日本花普及センター主催により、2月29日東織厚生年金会館（東京都中央区）で開催された。

花き流通関係者、生産者団体、都府県担当者が参加した大会において、最近の海外輸出環境現地調査の報告や海外有識者との意見交換会が行われたので概要を紹介する。

1 海外現地調査報告

(1) EU

- ・需要期：バレンタインデー、イースター、母の日（フランスは5月1日）など基本的に1月中旬から5月（母の日）までは需要が高い。
- ・盆栽・植木類の輸出はイタリア、切り花の輸出入はオランダが先進地である。これらの国を通じ、他国への転送を念頭に置いた輸出をすれば欧州全体に輸出が可能である。

(2) タイ

- ・需要期：花の一番の需要期はバレンタインデーで、次いで、卒業シーズン（1月）である。また、年末年始に花を贈る習慣がある。
- ・更なる経済発展が期待され、生活水準の向上や中間層の拡大の可能性が高い。
- ・通信販売が発達している。

2 日本産花き輸出の可能性

(1) 日本産の強み

- ・サクラの切枝や色のトーンが違う独自の品種など他国にないものがある。
- ・花持ちなど品質が安定している。

(2) 日本産の弱み

- ・産地ごとに出荷基準が異なるので、容器をあけ実物を確認する必要がある。
- ・国内出荷向けの容器は小さすぎ、輸送コストがかさむので、品質を損なわない範囲で多量に入る容器で出荷して欲しい。

(3) 輸出へ向けての課題

- ・輸出向け出荷規格の統一
- ・輸送コスト低減に向けた出荷形態の工夫

3 まとめ

単独産地や都道府県レベルでは、ロットの確保、安定出荷は難しい。このため、国内花き業界あげて、輸出へ向けた条件整備として、産地間の連携が必要であるものと考えられる。

愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名古屋市中央卸売市場(品目:チンゲンサイ)

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
19年実績	105	49 (47%)	257	222	静岡 (52%) 福岡 (1%)
20年見通し	130	-	250	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>冬場の冷え込みにより生育が遅れていたが、3月後半からの気温上昇と日照時間の増加に伴って急激に生育が進み、大玉傾向である。4月は前進傾向で、入荷が集中するであろう。品質は良好。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>			<p>中心となるのはL、2Lサイズであるが、最近ではラーメンや炒め物の料理にバランスの取りやすいMサイズのものの要望も増えてきているので考慮するとよい。 気温が上昇してくるとつぼみができたり、傷みやすくなるので、品質管理に注意してほしい。</p>		

東京都中央卸売市場(品目:さやえんどう)

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
19年実績	311	79 (25%)	833	1,007	中国 (29%) 徳島 (14%) 静岡 (10%)
20年見通し	300	-	850	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>中国産を除けば、愛知からの入荷が多く徳島がこれに続く。中国産は残留農薬の問題の影響もあり近年減り続けている。 愛知の生育は2月の冷え込みによる遅れから回復し順調である。徳島も若干遅れ気味であるが、生育は順調である。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>			<p>さやえんどうは、春のイメージが強い商材である。ポジティブリスト制度の導入以来、中国産の入荷は減っており、国内産地の重要性が増している。消費の需要はあるので産地は頑張してほしい。現状、本県産の品質には問題がない。 今後気温の上昇による品質低下が懸念されるので、品質管理には十分努めて欲しい。</p>		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		全国 平成17年 = 100 愛知県 平成17年 = 100				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	18年平均	100.3	105.8	104.0	100.8	102.2
	19年10月	100.9	110.4	119.4	103.1	102.2
	11月	100.7	100.9	104.6	104.0	101.8
	12月	100.9	104.5	99.7	104.4	102.5
	20年 1月	100.7	104.9	103.8	105.2	104.1
愛 知 県	18年平均	100.2	103.9	102.5	99.8	103.9
	19年10月	101.0	108.3	116.7	100.6	102.5
	11月	100.7	97.4	102.5	103.6	100.9
	12月	100.7	100.6	98.4	102.2	102.3
	20年 1月	100.4	98.2	99.9	102.1	102.9

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	18年平均	102.9	97.8	108.2	120.6	99.0
	19年 9月	99.9	94.0	107.6	102.3	101.2
	10月	100.7	89.8	114.1	112.2	100.2
	11月	94.7	91.5	94.0	113.2	99.2
	12月	98.0	92.5	106.9	98.1	101.7
	20年 1月	92.7	91.9	101.0	72.8	97.2

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一産、 「コヒカリ」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年平均	2,256	174	184	606	426	278	161	359	217	538	630	193	502
19年10月	2,247	146	164	733	506	254	177	285	197	517	690	219	-
11月	2,210	131	124	624	310	252	128	298	199	560	720	190	553
12月	2,203	135	108	652	433	273	127	290	196	561	774	219	491
20年 1月	2,198	135	116	610	396	271	114	260	201	666	642	220	468
品目 単位 年月	みかん	グレフ イル プ イツ	オレ ンジ	いちご	バナ ナ	キ ウ イル イツ	緑(せ 茶ん 茶)	カ ー ネ シ ョ ン	き く	パ ラ	豚(口 肉 ス)	牛(口 肉 ス)	ま ぐ ろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本	100g					
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年平均	546	354	404	153	245	686	609	159	168	312	233	793	497
19年10月	672	325	492	-	251	683	587	164	175	317	219	773	518
11月	457	366	482	-	247	699	594	157	167	317	225	781	488
12月	429	421	482	184	247	698	605	167	172	335	219	777	487
20年 1月	446	424	467	172	253	645	616	160	168	314	225	772	543

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 418
平成20年4月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417